



シリーズ
タンチョウ
Vol. 365

鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ

石下 亜衣紗

〒085-1205 鶴居村中雪裡南 ☎64-2620/FAX64-2239

鶴居 タンチョウ

検索



長沼町×鶴居村 タンチョウ子ども交流ツアー ～鶴居編～

KODOMO湿地交流つるい委員会では、子どもたちの自然体験・交流の場をつくるため、村からの補助を受け、村内の小中学生を対象に毎年「KODOMO湿地交流」に取り組んでいます。北海道各地、時には本州の子どもたちと自然体験を通して交流してきました。今年も、毎年交流を続けている長沼町の子もたちとの交流ツアーを7月31日・8月1日に鶴居村で実施しましたので、その時の様子を紹介いたします。

今回の交流ツアーは2日間。1日目の活動はタンチョウの観察と巣の調査です。「湿原の中に巣を作る」と話には聞いたことあるけど、実際のタンチョウの巣ってどんなだろう？大きさは？形は？巣材は？周りの環境は？見に行く前に予想してもらいました。

巣をイメージしたら、実際に野外へ自分の目で確かめに行きます！まずはタンチョウの姿を観察。まだ茶色いヒナを連れた家族に出会うことができ、長沼の子もたちは大喜び！鶴居の子もたちもその動きをじっくり見て、大人でも気づいていないような発見をしていました。そして、2つのグループに分かれ、それぞれ別の巣を調査します。どちらも牧草地に隣接する、小さな林の湿地にあり、そこに行くまでは牛がそばで見ていた牧草地を歩き、小川を渡り、ぬかるみを越え、2mのヨシをかきわけの大冒険。そして現れたタンチョウの巣は…予想よりも小さい！？普段は近くで見ることのできない貴重な機会です。計測し、中にあるものを探り、巣に乗ってみて抱卵中のタンチョウの視界や気持ちを味わいました。

調査が終わった後は、グループ毎に結果をまとめて、発表し合います。周りにたくさんあるヨシを主に使って巣を作っていること、巣の中には卵の殻が残っていることは同じでしたが、大きさが30cm以上違い、「タンチョウの巣」はそれぞれの場所に合わせて作られていることが分かりました。予想よりも小さかったけれども、実際に自分の五感を使って確かめることで「こんな歩きにくい所に巣を作って、卵を守っているなんてすごい！」と感じてくれた子が多かったようです。

2日目は、温根内で外来生物「ウチダザリガニ」の防除活動。じっと我慢しながらザリガニを待ち、釣りあげていきます。この日はじめてザリガニを掴んだ子もいたようでした。そして釧路湿原の広さを感じてもらいつつ、生き物ウォッチング。トノサマバッタやエゾトンボ、なかなか見ないオニクワガタを見つけたり、湿原に生える食虫植物モウセンゴケも観察しました。食虫植物と聞くとおどろおどろしいイメージですが、実物はとても小さくて、見惚れるような繊細な形をしています。

2日間の濃密なプログラム。暑かったり汚れたりしたこともありましたが、それでも子どもたちは目をキラキラさせて様々な発見をしていくのが印象的でした。楽しく無事に終了できたのは、恵まれた自然環境と地域の皆さまのご理解がそろっていたおかげです。10月には鶴居の子もたちが長沼町を訪問する「長沼編」も予定しています。

